

全国保育実践交流連絡会ニュース

関西地区



関西地区の14ヵ園は、西は広島から東は富山まで10都道府県にまたがる広域に位置しています。また、真ん中に京都・大阪のコロナ感染拡大地域があり、交流や学習、年長保育をどう進めようかとこの1年間試行錯誤しました。どんな状況でも、互いに学んできた知恵を生かして、できる限りのことをしよう取り組みました。今年度新たな形で実施した「年齢別部会」と年長の活動を紹介します。

1. 年齢別部会

関西の年齢別部会は、例年春に総括会議で顔合わせをして、夏か秋に公開保育の園で集い保育実践と各園の絵を見て討議し、1月実践交流会でその後の実践を語り合う、という流れです。ところが今年度は、前半は全く集うことが出来ませんでした。ようやく秋に「年長担任だけでも集まれる場所で集まろう」と年長部会を北陸と中国・近畿に分かれて実施しましたが、その後第三波で他のクラスでの部会や1月の実践交流会も実施が困難になりました。「クラスの保育実践を語り合う場を、何らかの可能な形で実施しよう」とzoomでの年齢別部会を持つことにしました。初めてのzoomで14ヵ園でのやりとりは大変では、と0歳児～4歳児、給食部会では近畿・中国と北陸の2つに分かれて実施しています。討議の内容、感想の一部をお伝えします。

<0歳児部会 : 北陸>

2月10日(水) 12:30～14:30 4ヵ園参加

事前に各保育園の実践まとめと絵、成育歴を配布し目を通して参加することとしました。まずは各園から4.5月の自粛間の保育状況、その後1年間大切にしてきたこと・取り組み・保育の工夫などを話し合っていました。0才児では、特に土台となる信頼関係を築いていくこと、一人ひとりの発達段階を十分に保障していくこと、笑顔や発声を豊かに引き出すには、しっかり食べていくこととは、と話が広がりました。保護者との関係づくりが大変だったことも数多く出されました。

《感想》

- ・9月から現場復帰で、初めての0才児、1月末で主担任が退職、そこから主になり、職員同士話し合いながら保育しているところです。“笑顔で子どもに接する”ことを常に頭において保育してきましたが、いっぱいいっぱいになってしまっていた時に、今回の部会があり、元気をもらうことが出来ました。
- ・どの園も食・運動・関係づくりに関して工夫しながら子どもと向き合っていると感じました。特に食に関しては食べて欲しい気持ちが強くなりすぎないよう、“食べることが楽しい”と思える関わり方が大切だと再確認できました。
- ・リモート部会では、顔が見えづらく話づらいと感じました。でも時間と共に各園の保育内容の様子、子どもに対する悩みや迷うことなどで一人ひとりの考えや思いが伝わり、“やっぱりこういう会って必要なんだ”と思いました。

<1歳児部会 : 北陸>

2月12日(金) 12:30～14:30 5ヵ園参加

今年度初めての部会なので、テーマは設定せず、互いの悩みや疑問点を出し合おうとスタートしました。その中で、「丸やファンファーレの絵が余りしっかり出ずに、頭足人を描いた2歳5ヵ月の子の絵をどのように見たらよ

いのか」「母乳を飲んでいる子で予防接種を全く受けていない、こだわりを持って子育てしているお母さんへの伝え方や信頼関係をどのようにつくっていくか」などが出され、後者については、「お母さんの大変さをまずは共感して、関係を気長につくること。その中で、生活リズムや環境の配慮、色々な人との関わりなど様々な側面で話をしていけるとよいのでは」との意見が出されました。他にも保護者との関係については、送迎時も受け渡しのみでほとんど話ができず、各園から悩みが出されていました。各園の生育歴を見る中では、帝王切開や陣痛促進剤で生まれてきている子どもが多くなっていることの懸念も出されました。

《感想》

- ・絵を遊びの一つとして毎日取り組んでいる他園の実践を聞き、自園でも好きな時に好きなだけ描ける環境を作っていたいと思った。
- ・zoomでの部会は移動が不要で、午睡を利用して参加できて、また保育に戻れる点では良いと感じた。
- ・パソコンでの話は聞き取りにくかった。1人ひとり絵を見ながら話せたらもっと深まったと思う。

<3歳児部会 : 中国・近畿>

2月4日(木) 13:00～16:00 9ヵ園参加

仲間とよく遊び自我が充実する3歳児。子ども達がやりたい事を存分にできる生活をどう保障していくかの実践を出し合いました。

取り組みや夢中になっている遊びなどが報告される一方で、スマホやタブレット、テレビが子どもたちに与える影響が各園さらに大きくなってきていること、また習い事も増えてきていること、この事の弊害を保護者にどう伝えていくか、またそれらに打ち勝つ子どもの自信につながる生活をどうつくるかなど意見を出し合いました。スピードや便利さが最優先される現在の生活の中では保護者の理解を得るには時間がかかるけれど、保護者と共に学び続けることが大事だねと確認し合いました。

また、今回のZOOMでの部会は繋がりを確かめ合い保育に刺激をもらい大変良かったとの感想も多くありました。もっと絵をじっくり見たい、事例に沿った絵の見せ方の工夫など改善への要望も多く上がりました。

<年長部会 : 関西全体で実施>

秋になってやっと、北陸5園は石川県山中ふたば保育園で、関西・中国9園は岡山で集まって、年長部会を開催。2回目となるリモート年長部会は全14ヵ園でやろう、そのために時間も延長して(13時から17時)報告だけでなく絵もデータにして事前配布して、2月18日の午後に実施しました。

0年長交流保育は、県を越えないで福井(2～3ヵ園)と岡山(2～3ヵ園)はしています。

0各園、子どもが力を発揮する場をどう作るか様々な取り組みを交流しました。

- ・三国ひかりと鷹巣ひかりとは、合宿の時グループで飯盒炊飯を4回し、次の合宿でも3回する中で、自分たちで作り自信につながった。
- ・くるみは、園外保育ができなかった前半、毎週味噌汁づくりをし、手早くなりみんなの分を作るようになる。
- ・年長が少ない園では、ひょうたん山(1名)は、木工でいすを、実り(2名)は陶芸でキャンドル立て、山の子(2名)は柿の葉ずしなど、みんなのために力と知恵を出す取り組みを様々やっている。

0どの園もいつもと違う行事や保護者との協力関係の作り方を、試行錯誤して取り組むことに追われている。最後まで、子ども中心に保育を組み立て身体の奥底から「おもしろい」と思えるとりくみをやりきろう。と確認しました。各園の実践を聞いて自園の取り組みを見直す機会となり、良かったとの声が多かったです。

＜学童部会　：　関西全体で実施＞
1月14日（木）　7学童　15名参加

今年度はコロナ禍での保育環境で、例年にないトラブルや、子どもたちとの関わり方などが出されました。提案園のもみの木学童クラブさんからは、緊急事態宣言に伴う休校処置に対し午前中は保護者が当番制で保育に入ることによって子どもの居場所を保障したという報告がありました。その中で地域の方にご迷惑をおかけする出来事も起きていました。しかし、地域の方から叱ってもらえる関係性や、保護者の方々と学童との繋がりやの深さなどを感じることができ、素晴らしいなと思いました。他には、子どもたちの出す様々な姿への大人の関わり方が討議され、大人が「聞く」姿勢を大切にしている実践が出されました。今「子どもたちの居場所」という所で社会の目が学童というものに向けられ、必要性が見直され始めています。子どもたちを取り巻く社会情勢を理解し、子どもたちにとって大切な保育を学び、考え続けていくことが必要だと感じました。

～　初めての zoom 部会に取り組んでみて～

zoom 部会では、絵を傍らに置いて適宜見せながら報告しようと最初に確認していましたが、「全員の絵をしっかりと見てから討議しよう」「春、夏、秋、冬の報告と共に変化した子どもの絵も画面に映していこう」「画面ではやはり見づらいので、A4 資料にして事前配布しよう」と改善を重ねてきました。しかしやはり実際の絵を真ん中に討議することには代えられず、次年度の総括でそのような場を持っていく計画です。子どもの絵から実践を学ぶことの大切さを改めて感じた zoom 部会でした。しかし、こうした機会を持つことで、共に学ぶ仲間の居ることのありがたさや、他園の実践報告が学びと元気に繋がることを再確認できました。

2. 年長の活動　各地域のスキー合宿の様子

今年は交流が全く思うようにできず、子どもの活動や育ちにも例年との違いが見られ「交流の刺激やあらたな仲間と出会う体験がいかに大切か」を再確認したとの声が多く聞かれています。その中でも、やれることを各地域でやろうと、例年の「山中ふたばスキー合宿」に学んで県内の近くの仲間と、また自園単独でスキー合宿に取り組みました。

＜山中ふたば保育園では＞

日程：2月6日(土)～8日(月)　園内で7(日)のみ宿泊



スキー合宿については年度当初から父母の熱い希望もあり実現に向けて話し合いを重ねました。スキー場も近場の小さいスキー場（リフト3本）を選び、繰り返し滑る中で仲間の姿も見合い一人ひとりが達成感を持てる活動になりました。保護者はスキー場のみの参加となりましたが、何度も何度も滑る子どもたちの姿に驚き、本当に開催できたことを喜んでくれていました。合宿終了後は園庭で小さい子たちの目の前でスキーをする姿を見せてくれました。滑るだけでなく、目の前まで来て止まる姿や曲がる姿に小さい子からも拍手が起きさらに大きな達成感につながりました。

＜もみの木保育園では＞

日程：1月30日（土）～2月1日（月）

今年度は、初めてもみの木単独の2泊3日の雪遊びスキー合宿を、岡山県北で子ども16人、大人12人で実施しました。これまでの石川県山中ふたば保育園にお世話になった経験と、保護者やOB・協力者の応援があり実現しました。

車中から積もっている雪が多く見えるにつれて子どもたちからは「わー雪ー！」「山が白くなっとる！」と大歓声。初日は宿舎の目の前で雪遊び三昧でした。何度も何度もソリすべりを楽しんでからも、雪合戦、雪だるま作り、かまくら作りと盛りだくさん。かまくらは子どもが8人も入れるほどの大きさをみんなで作り上げました。夕方にはかまくらにキャンドルを灯し、「きれいやなあ」「雪が焦げて黒くなっとる」「かまくらの中の方が暖かい」など別世界を思う存分に楽しんでいました。雪だるまにはそれぞれに名前を付けるほど愛着がわいていて「明日、溶けていませんように」とお願いしていましたよ。



2日目からスキーに挑戦！合宿前に、スピードがあったほうがいいのか、ゆっくり滑りたいのか、など子どもたちの意見を聞いて2つのグループに分かれてやってみました。園で毛布やマットを敷き詰めてスキーごっこをしてきましたが、初めての雪の上では緩やかな斜面から滑って、三角にブレーキをかけて、を何度もやり、おやつ後に1本リフトに乗って長い距離を何度も何度もころんで降りてきました。子どもたちは前向きで、夕食時には「明日リフト5回乗りたい」「3回でいい」「曲がりながら滑るの難しかったわ」との声がありました。

最終日には、どの子も上手になって5回もリフトに乗って滑りました。何回も滑っていくことで、身体で感じて自分のものにしていく姿や、「まだ滑りたかった…」という子が多く、終始笑顔がキラキラ輝いている子どもたちでした。生活面では、移動や用具が多く自分の用意や片付けをするのに苦労しながらも、自分で最後までやり切る姿になってきました。大勢の大人に応援してもらって、ダイナミックな活動となりいい勢いをもらいました。

